

製品名: PKM ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21601**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:57kD;Observed MW:57kD

抗原情報

遺伝子名	PKM
別名	PKM;OIP3;PK2;PK3;PKM2;Pyruvate kinase isozymes M1/M2;Cytosolic thyroid hormone-binding protein;CTHBP;Opa-interacting protein 3;OIP-3;Pyruvate kinase 2/3;Pyruvate kinase muscle isozyme;Thyroid hormone-binding protein 1;THBP1;Tu
遺伝子 ID	5315.0
SwissProt ID	P14618
免疫原	ヒト PKM の合成ペプチド

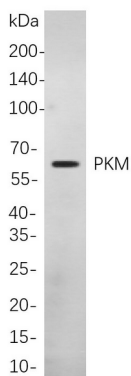
背景

細胞局在: 細胞質。この遺伝子は解糖系に關与するタンパク質をコードしている。コードされているタンパク質はピルビン酸キナーゼであり、ホスホエノールピルビン酸から ADP へのリン酸基の転移を触媒し、ATP とピルビン酸を生成する。このタンパク質は甲状腺ホルモンと相互作用することが示されており、甲状腺ホルモンによって誘導される細胞代謝効果を媒介する可能性がある。このタンパク質は、淋菌のヒト細胞への付着および侵入に關与する細菌外膜タンパク質である Opa タンパク質に結合することが見出されており、このタンパク質が細菌の病原性において役割を果たしていることを示唆している。いくつかの異なるアイソフォームをコードする、選択的スプライシングを受けた複数の転写バリエーションが報告されている。[RefSeq 提供、2011 年 5 月]

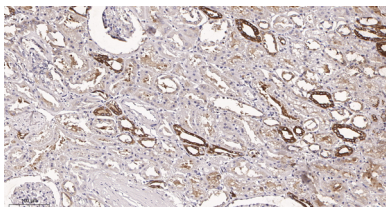
研究分野

-

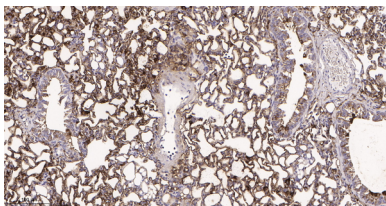
画像データ



A549 細胞のライセートのウェスタンブロット解析 (PKM ウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋ヒト腎臓組織の免疫組織化学分析。1、PKM ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、抗体の回復には EDTA pH 9.0 を使用 (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋マウス肺組織の免疫組織化学分析。1、PKM ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20 分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。